二〇二一年度二松学舎大学人文学会役員・委員（五十音順）

会　　長　山口直孝
運営委員長　松本健太郎
運営委員　伊藤晋太郎・小山聡子
　　迫田幸栄・仙石知子
　　堀野正人・松浦史子
研究委員長　小山聡子
研究委員　王　宝平・五井　信
　　仙石知子・林　謙太郎
　　牧角悦子
編集委員長　松浦史子
編集委員　足立　元・五月女肇志
　　中谷いずみ・林　英一
　　堀野正人
会計委員　伊藤晋太郎・迫田幸栄
監　　事　沖森卓也・髙澤浩一

《編集後記》

コロナ旋風が吹き荒れた年も、今年で三年目となる。学術研究・教育の場でもさまざまな模索が繰り返されてきたが、ネット環境を中心に新たな時代への変容も受け入れられつつある。このようななかお届けする『人文論叢』百八号の巻頭、掲載論文に、江戸末期の俳人研究、扇をめぐる芸術文化論、幕末～明治期を生きた文人の文章論、清末文人に見る明代小説研究と、時代の変容期を取り上げた論考が目立つのも、昨今の世界情勢の反映であろうか。コロナ旋風によっておおくの既存の社会システムに変容が迫られつつある一方、その新たな試みの中に、次の時代への可能性を感じることもある。各時代・地域の社会、そこに生きた人々の在りかた等を見据える人文社会系の学問にとっても、コロナ旋風は、新たな風となり得るだろう。

「私の研究」「紹介」のほか恒例の博士論文・修士論文・卒業研究題目一覧も修了生卒業生の皆様に贈ることができた。コロナの影響によって学業生活に大きな変容を余儀なくされた学年でもあるが、時代を悲観せず危機を好機に変え、人文学の知恵を身につけた若き開拓者として未来に繋げて欲しい。

さまざまな不便な制約のあるなかの今年度の編集作業において、担当助手の小島朋子氏には大きなご協力を頂いた。謝意を表したい。

（編集委員長　松浦　史子）